

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900018		
法人名	株式会社 清里		
事業所名	グループホーム清里		
所在地	〒038-3301 青森県つがる市富范町屏風山1番地1048		
自己評価作成日	平成25年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者様はもちろんのこと、家族、当社に出入りする全ての方に対して、礼儀をもって接することです。また、個人の尊厳保持のために、相手を受け入れることです。</p> <p>・一人ひとりに対し、トイレの見守り、または、介助しています。毎回ウオッシュレット、もしくは蒸しタオルでの清拭介助をしています。</p> <p>・週3回の入浴の他、必要な方に対し入浴日以外の足浴、清拭対応です。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>十三湖の景色が四季に合わせ変化していく様子を事業所のリビングから見る事ができる。十三湖の蜆貝漁をほぼ毎朝眺めることができ、地域からの利用者は自宅に居た時と同じように日々の移ろいを感じることができる環境である。そして全ての利用者にとって、暮らす場所が変わってもそれまでと同じような生活が続けられるように環境等を整える取り組みを行っている。その中で感染症対策や排泄等のプライバシーについて、また、日常生活全般において気配り及び声掛けを行い人権擁護に対する取り組みがなされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアの中で尊厳保持に努め個別対応がなされている。	開設時の管理者の体験・思いから生まれた『入居者の想いに寄り添うことを大切に』をもとに理念を作成している。朝礼や会議の際に話し合い意識の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のお祭りの際、地域の方々に参加していただき、家族、職員も一緒に楽しみました。 しかし、まだまだ今後の課題でもあります。	地域の方が気軽に集える場を目指したいと地域イベントに積極的に参加し情報を集めたり、地域婦人部との定期的交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭りの際、隣近所の方々に招待し、認知症の方々と一緒にゲームに参加していただいたり、一緒にお食事していただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成25年4月1日開設後、介護保険課、地域包括支援センター、家族、地域の方々と、情報交換、家族の意見、指導を受けながら、サービスの質の向上を目指しています。	運営推進会議を2ヶ月毎に実施している。介護保険課担当職員や地域の方々からのアドバイスや収集した情報をもとに事業所ができることを模索しながら実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括センターから、指導は受けるように努めている。まだまだこれからの課題である。	開設して間もないこともあり介護保険情報や地域特性、家族との関係等についても連携を密にしアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	頭では理解してるつもりですが、今後の課題です。	『入居者の想いに寄り添うことを大切に』という理念のもと、行動の抑制やスピーチロック(言葉による拘束)をしないケアに取り組んでいる。職員会議で勉強会も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会はまだまだ少ないですが、事業所内では、朝礼、話し合いの場を設けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだできていない。今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所説明でそれなりに行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さま、家族の要望は、面会や、何かあるたびに声掛けし、聴くようにしています。	家族の想いや要望を面会時や電話連絡で聞き取り、職員会議で話し合いをしている。	会議の場で話し合った内容と検討結果について、家族への返答や要望・想いを運営に反映できるように期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会があれば、ミニ会議を開くようにし、意見交換をし、実行するようにしています。	利用者のケアや業務内容についてなど定期的な職員会議の場で聞き取っている他、些細なことでも随時会議を行い職員の意見を吸い上げ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割分担を決め、責任感を持つことにより、職員全員で話し合いの場を多くするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修に交代で参加できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修での他施設での交流、見学しかできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り、不安など無いようにまた、要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族の願い、要望には耳を傾け、対応には注意を払っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コールマット等、できる事は努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちは、家族にはなれないが、24時間365日共に生活しているので、信頼関係の構築を日々努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての家族とはいきませんが、協力できる家族とは、常に相談しながら、対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さまの友人、近所の方々が気軽に遊びに来れる環境づくりに努力している。	地域交流センターや郵便局、なじみの理髪店へ行ったり、自宅への散歩など、馴染みの場所へ日常的に出掛ける取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護保険において、個別ケアとされていますが、食事は職員の都合ではなく、夕食時を楽しみにしているので、特例は除き、全員で「いただきます」と挨拶をかわしながら、食事の場を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る範囲で、電話連絡、その後の様子を尋ねています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり、糖尿病の方がいらして、誰の耳にも傾けない為、本人の決定に対し支援を行います。	これまでの関わりや想いを日常の会話の中から引き出していくよう努めている。	本人の要望や想いを細かく記載し、職員で情報を共有出来る取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それなりに努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者、早番、日勤、遅番と連絡ノート、口頭での伝達、朝礼などで、状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームとして、ケアカンファレンスを行い介護計画をやっているが、まだまだこれからの課題です。	定期的カンファレンスの場を設け職員間で意見を出し合いプランを作成している。	本人や家族から聴取した要望・想いを細かく記載し、職員で情報を共有し、プランに反映できるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況変化に応じた即対応は実践しているが、計画書を作り直したり、計画書の家族のサインまでできていない。これから実践していく予定です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだこれからの課題です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の要望に合わせ、一人ひとりに合わせた受診を行っている。	入居前から受診しているかかりつけ医へ入居後も通院を行い、また、職員が付き添い、現在の状況を細かく報告し連携を密に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携により指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これからの課題です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と話し合いはしているが、あくまでも、状況をみながら決めていく方針である。	終末期における事業所内での対応については随時家族や本人と話し合う機会を設けている。重度化への対応についても都度変化に応じ支援している。	開設して間もないこともあり、終末期に向けた体制作りと職場内教育に取り組んでいる最中である。その人らしい最期を迎えられるよう地域医療との連携と体制作りに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	これからの課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	次回地域の方も参加の計画予定です。	10月に今年度最初の避難訓練を実施している。家族との連絡体制の構築や地域消防団との合同訓練も企画しており安全確保のための取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それなりに努力している。	排泄時の羞恥心への対応や、声掛けについて検討会を開くなど定期的に振り返りながら、日々プライバシーを損ねない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	配慮しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その部分は、大事にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当社でサービスでカットしていますが、あくまでも本人の要望に合わせて散髪しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さまと、職員と一緒にやっていきます。	調理や盛り付け、片づけ等を職員と利用者が一緒に行っている。また利用者それぞれが笑顔で楽しんで食事をしている姿がうかがえた。敷地内の広い農園で収穫した野菜を用いて様々な調理にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それなりに努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り、トイレで排泄できるよう行っています。二人介助にても、トイレでの排泄を実行しています。	外部研修等に参加し支援方法を学び、個々の排泄パターンをつかみ、水分量を確保し把握に努める等、自立に向けての実践に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それなりに努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回、またそれ以外では、個人の要望に合わせて、全身清拭、足浴を毎回行っています。入浴の日時や、時間などはある程度は決めている現状です。	本人の希望に合わせて入浴日や時間を確保できている。また、ゆっくりとリフレッシュしていただけるよう個々の入浴の仕方を把握するよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護記録を活用し、薬の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それなりに行われています。また、職員も努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時は、声掛けにより、道の駅や十三湖、展望台など一緒に行きますが、外出困難な方へは、これからの課題です。	利用者の気分や要望をしっかりと受け入れ、週1～2回の外出を企画している。また、職員と一緒に食材の買い出しや散歩などに気軽に行けるよう勤務を考慮し職員の数を確保している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解のもとで、行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に合わせ電話は自由に、家族への差支えない時間帯での対応しています。遠くへの家族、兄弟への写真などのプレゼントをしたら、また、お願いしますの意味で、手紙に切手が同封されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目が思わしくない方へは、座る位置に配慮したり、季節に合わせてそれなりに配慮して、楽しみを持って頂いています。観葉植物を居室に飾ったら、毎日、増えているのを楽しみにしています。	動線に配慮し、利用者それぞれが居心地がいいと感じられるように工夫している。観葉植物をプライバシーに気を付けながら配置しており、配置する際も利用者とともにやっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それなりに工夫はしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、個人に合わせて工夫しています。	入居されている方々と話し合い、意向を聞き出しながら利用者が心地よく感じる居室作りに取り組んでいる。自分の趣味をすぐに行えるように配慮して家具等を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プレートを使い分かるようにしています。		